

## 今年もインターンシップを受け入れました！

(リポーター：赤澤 恵子)

当館では例年夏休み期間中にインターンシップの受入れを行っています。今年も8月26日から2週間にわたって大学院生・大学生計3名のインターン生を受け入れました。

初日は、ほぼ1日かけてオリエンテーションや館内案内等を行い、2日目から実際の業務を担当してもらいました。具体的には、当館収蔵資料の整理・保存のほか、インターン生が関心のある行政文書の公開審査等です。

やっていただいたのは当館業務の基本であるパソコンへのデータ入力作業等、デスクワークが主ですが、その他にも暑い中、文書の移動・整理に汗を流してもらいました。



3人には熱心に取り組んでいただき、積極的に質問しながら、当館の業務とその意義について理解しようと努めていました。

インターンシップ終了後の3人の実習報告書を一部紹介します。

・「実習前は文書館での業務は主に史料の保存・保管にあると思っていましたが、実習を通して史料の保存はもちろんのこと、市民に対する文書館の利用促進にかなり

力をいれていることに驚きました。」

- ・「市民により良く利用してもらうことを常に念頭において行動している姿に、自分も人々のより良い生活のために尽力できる社会人になりたいと改めて思いました。」
- ・「今後は文書館を自身の研究に一層活用したいと思っています。」
- ・「今後は行政文書閲覧というサービス、換言すれば国民・



住民が自らの知る権利を行使しうる場を、行政職員は積極的に整備・改善していく必要があるのではないかと感じた。」

・「文書館においては、今後より一層公文書管理の透明化が徹底され、全県民の負託に応えられることを切望します。」

インターン生には、当館での行政文書の管理・公開審査についての高い問題意識を持って取り組んでもらえたようです。就業体験を通して当館への理解を深めただけでなく、当館の本質的機能や問題・あり方についても貴重な意見をいただきました。

インターンシップの期間を通して職場へ清々しい風を吹き込んでもらい、私達にも良い刺激になりました。

今回の体験で感じたこと、学んだこと、自分自身の課題等を、将来の進路選択を考える際の手がかりにさせていただければ幸いです。

